



ど り よ く つ づ 努力し続ける

「もしかれらがわたしの前にへりくだり、わたしを信じるならば、そのとき、わたしはかれらの弱さを強さに変えよう。」

(エテル 12:27)

わたしの両親は、わたしがおさないころ教会に入りました。わたしたち家族はオーストラリアの小さな支部に集っていました。母は教会でピアノをひいていましたが、母にひけたのは、ほんの数曲の賛美歌だけでした。わたしもピアノを習っていたので、7才のとき、支部会長から教会でひいてほしいとたのまれました。

ピアノをひくと間違え、その度に、よく泣いていました。とてもはずかしがり屋で、きんちょうしやすい子でした。でも、わたしは練習を続けました。上手に賛美歌がひけるようになりました。今はピアノをひくのが大好きです。すべての賛美歌をひくことができます。ニュージーランドで伝道したとき、そこでも小さな支部で働きました。ピアノをひける人がだれもいなかったの、わたしは1年間、オルガンとピアノをひきました。おそれを克服しようとしたこ

とはわたしにとって祝福でした。おかげで人々を祝福することができました。

おさないとき、話すことにも問題がありました。どもっていたのです。みんなの前であかしをするのは大変でした。話そうとしても、泣いてしまって話せないこともありました。助けてもらおうと神権の祝福を受けましたし、両親はいつもはげましてくれました。やがてわたしは、もっとはっきりと自信をもって話せるようになりました。

今でもきんちょうしますし、総大会で壇上に行って話すのはこわいことです。でも、そこには強いみたまがありました。はげましと平安を感じました。それはおどろくほどの経験でした。

みなさんがはずかしがり屋で、話すのが苦手だとしても、努力を続けてください。みなさんがどんなに話すのがむずかしいとしても、わたしたちはみなさんの話を聞く必要があるのです。あなたにしか話せないことで、たくさんの人々を祝福できるのです。■

イラストレーション: パー